

平成 23 年（2011 年）の大雪山の火山活動

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○2011 年の活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図 1-①、図 2～9）

旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上 200m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。

8 月 2～3 日に実施した現地調査及び 9 月 26 日の上空からの観測（北海道開発局の協力による）では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気や地熱域¹⁾の状況に特段の変化はありませんでした。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震及び微動の発生状況（図 1-②）

7 月 29 日に旭岳付近の浅い所を震源とするマグニチュード 2.2 の地震が発生し、旭岳温泉や天人峡温泉などで揺れを感じたとの報告がありました。この地震の発生前後で火山活動に特段の変化はありませんでした。それ以外は地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。



図 1 大雪山 火山活動経過図（2010 年 4 月～2011 年 12 月）

この資料は札幌管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>) や気象庁のホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。

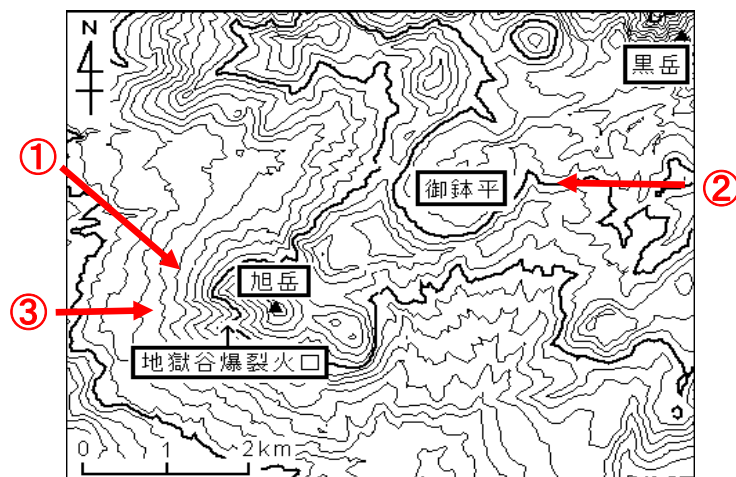


図 2 大雪山 周辺図と赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）



図 3 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口の状況
北西側（図 2 の①）から撮影

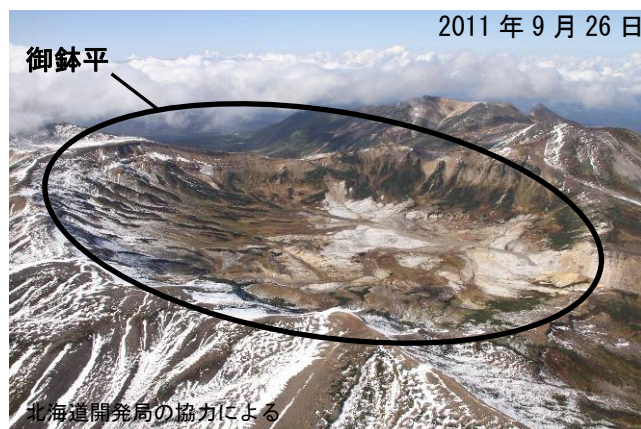


図 4 大雪山 御鉢平の状況
東側（図 2 の②）から撮影

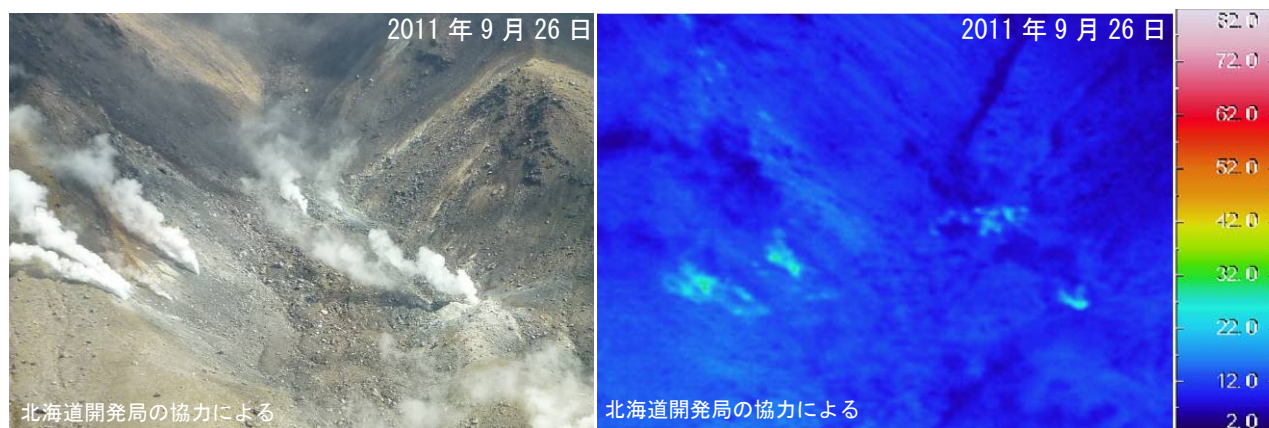


図 5 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口の地表面温度分布¹⁾
西側（図 2 の③）から撮影

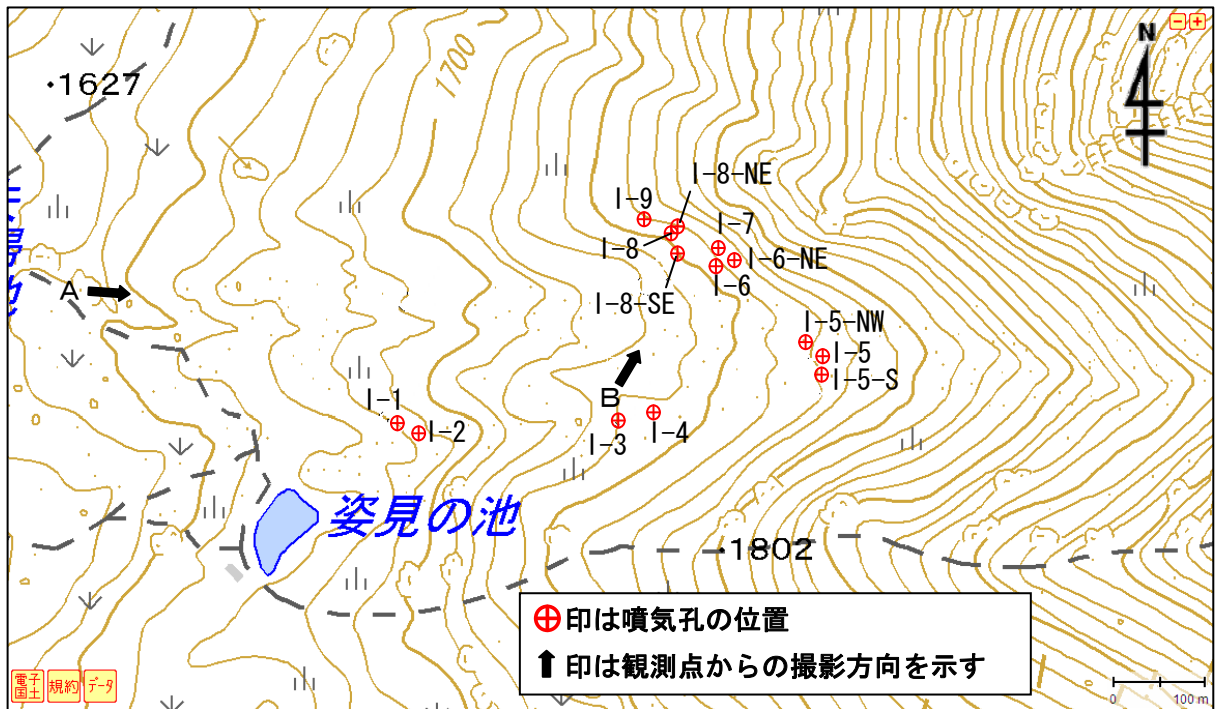


図 6 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口の各噴気孔 (I-1～6) と観測点 (A～E) の位置図

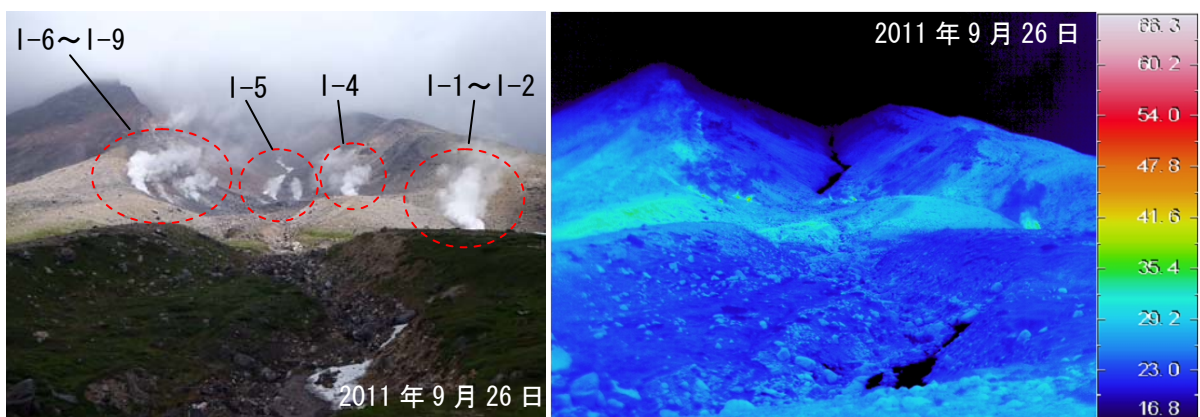


図 7 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口 各噴気孔の位置 (左) と地表面温度分布¹⁾ (右) 西側 (図 6 中の A) から撮影

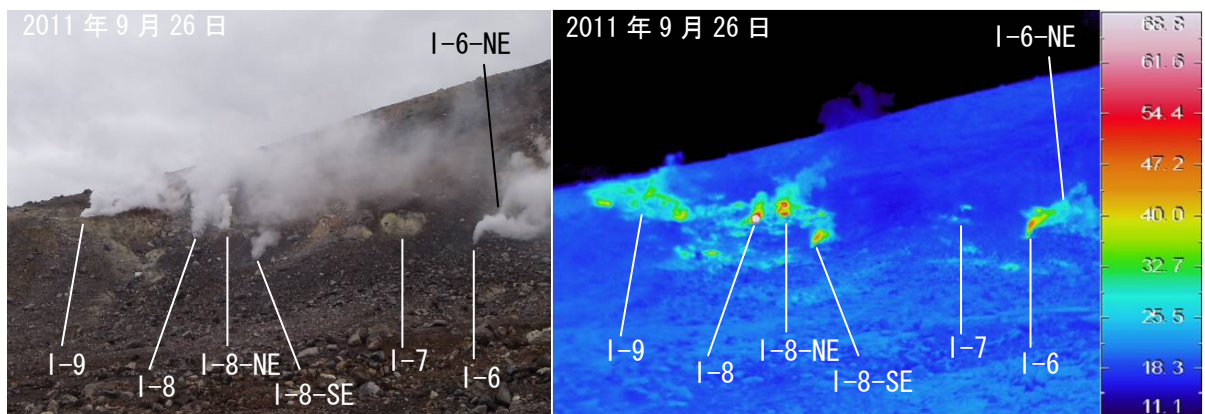


図 8 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口 I-6～9 噴気孔の地表面温度分布¹⁾ 南側 (図 6 中の B) から撮影



図 9 大雪山 旭岳西側の状況（8 月 13 日、忠別湖東遠望カメラによる）
白丸内は旭岳地獄谷爆裂火口の噴気

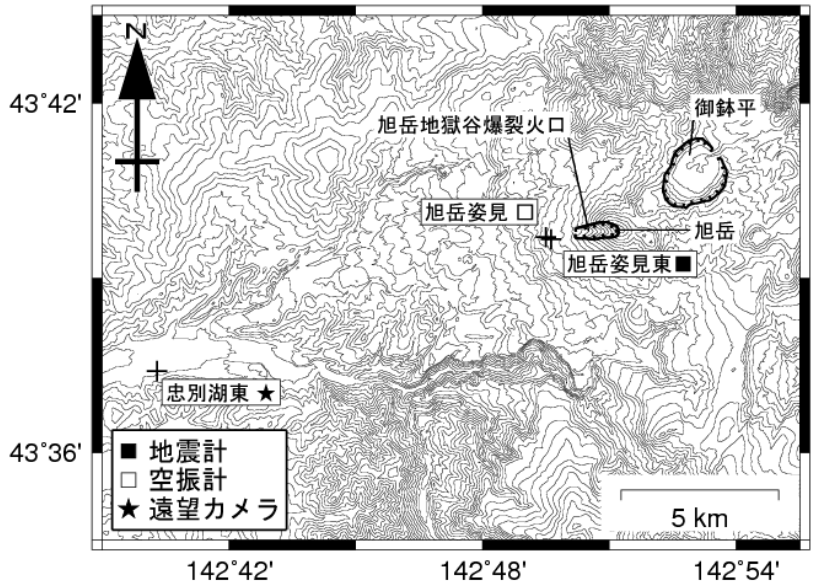


図 10 大雪山 観測点配置図
＋は観測点の位置を示します

気象庁観測点一覧表 大雪山（緯度・経度は世界測地系）

記 号	観測機器	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始日
			緯度(度分)	経度(度分)	標高 (m)		
■	地震計	旭岳姿見東	43 39.66	142 49.62	1607	0	2010 年 9 月 1 日
□	空振計	旭岳姿見	43 39.7	142 49.5	1592	7	2010 年 9 月 1 日
★	遠望カメラ	忠別湖東	43 37.4	142 40.3	430	13	2010 年 4 月 1 日